

監察室の設置提言

外部有識者委 不当要求対策研修も 市長に報告書

姫路市発注工事を巡る贈収賄事件を受け、原因究明と再発防止を検討する外部有識者3人が10日、石見利勝市長に提言書を出した。3人は職員を監視する監察室の設置や不当要求に対する実践的な研修の実施などを要請。石見市長は「厳しい指摘をいただいた。組織全体を見直し、信頼回復に努める」と述べた。市は提言を踏まえ、14日の市議会総務委員会に具体的な再発防止策を報告する。(三島大一郎)

姫路市 汚職

提言したのは元姫路署長の西岡敏成・関西

国際大人間科学部教授で、西岡氏は現場職員授63▽刑事訴訟法が専門の道谷卓・姫路独協大副学長(52)▽元検事の中村和洋弁護士(45)。それぞれが提言書を作成した。事件の要因について、その上で「幹部職員を



石見利勝市長に提言書を手渡す中村和洋弁護士＝姫路市役所

含め不祥事に対する危機意識が極めて低く、相互のチェック機

見「職場の

「職場の

早急に組織改革求める

「このままで、また同じ事件が繰り返される」。10日、姫路市に汚職事件の再発防止策を提言した外部有識者の記者会見。事件の要因に関し、逮捕された元局長らの「個人の資質」にとまらず、職場風土など組織の体質に問題があったと強調。早急に組織の構造改革に取り組むよう訴えた。

記者会見で提言内容について説明する外部有識者の西岡敏成さん(左)

「重要な業務を安易に部下任せにする傾向がある」。西岡敏成・関西国際大人間科学部教授(63)は、工事担当職員らの聞き取り調査結果を踏まえ、幹部職

能も「不十分」と断じ、各部署から独立した監察組織の設置を求めた。

道谷氏は、逮捕された元局長の局長在任期間が4年を超えていたことを問題視。「同一部署への長期在籍が、業者との親密な関係構築につながっ

た」として、専門性の高い部署でも的確な人事異動の必要性を説いた。また、同種事件をモデルにした職員研修の実施を提言。講義形式ではなく、職員らが能動的に参加する内容にすべきとした。

市は昨年11月、3人による専門委員会を設置し、計3回の会合を開催。3人は市職員で構成する「調査チーム」が実施した工事担当職員ら100人の聞き取り調査などを基に、発生の経緯や背景、再発防止のための対策を検討していた。

員の責任意識の欠如を問題視。「現場の職員の孤立を招き、結果として業者との結び付きを強めてしまった」と分析した。道谷卓・姫路独協大副学長(52)は、市議らの過度な要求が、業者選定への圧力となり、事件の遠因になったと指摘。その中には不当要求とも取れる事例も報告されたという。「むやみな要求には決然と対応する仕組みづくり



が必要」とした。今後、具体的な再発防止策に取り組む市に対しては、中村和洋

漢方薬の老舗
赤船堂
288-2549

護士(45)は「公務員の職務は市民の信頼がないと成り立たない。今回の不祥事を姫路市の全職員が人ごととは絶対に思ってはならず、わが身の問題として危機感を持って再発防止に努めてほしい」と呼び掛けた。

業者の要望記録など提言

汚職防止 姫路市長に専門委

姫路市の公共工事を巡って昨秋、相次いで発覚した汚職事件で、外部有識者でつくる市職員不祥事調査・再発防止検討専門委員の3

市議会総務委員会が報告する。専門委員は昨年11月に市が委嘱。建設局職員1000人への聞き取り、当事者の元道路整備改善課長と元建設局長への面談や文書での調査などを行い、3人が個別に提言書をまとめた。各委員は、不祥事の要因

として▽職員が業者個人として対応▽職員倫理条例への理解不足▽在任期間の長期化による業者との癒着などを挙げた。重要な業務を部下任せにし、担当職員が孤立する構造的課題の指摘もあった。複数の職員から、市議に

小冊子の作成、常時携帯—などを提案した。専門委員は記者会見で、「今回の汚職は個人の資質ではなく、組織の構造上の問題」「公務員は市民らの信頼なくして成り立たない。全職員が危機感を持ってほしい」などと述べた。石見市長は「法令順守や風通しの良い組織作りに取り組み、市民の信頼を取り戻したい」と述べた。

監察室設置など提言

汚職再発防止 姫路市専門委員

姫路市発注工事の入札をめぐる汚職事件で元道路整備改善課長と元建設局長にいずれも懲戒免職、執行猶予つきの有罪確定が相次いで逮捕されたことを受け、再発防止策を検討して

発防止に取り組むよう訴えていきたい」と述べた。市は提言を踏まえ、14日の市議会総務委員会再発防止策を報告する方針。提言では、不祥事が相次いだ要因として不正を監視する部署がなかったことを挙げ、監察室が独立した立場から各部局の動向を調査する必要を指摘。また、現在は非公表となっている

最低制限価格を入札前に公表することも選択肢として考慮すべきとの意見も盛り込まれた。さらに、職員のコンプライアンス意識を高めるため、全国で起きた公務員による犯罪の具体例について討論する研修の実施なども提案している。専門委員は昨年11月から、不祥事の当事者である元局長や元課長のほか、入

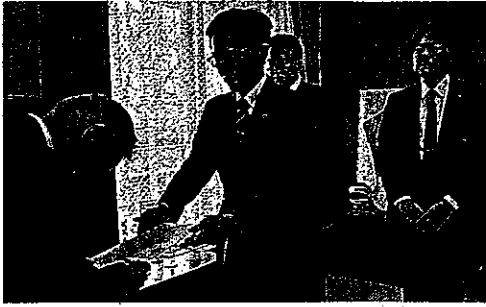
札業務に関係する建設局の職員約1000人への聞き取りを行うなど、調査を進めていた。

利害関係者らの要望など全件記録／「監察室」設置

不祥事防止へ提言

姫路市長に専門委員

姫路市発注の工事入札をめぐる贈収賄事件が相次いだことを受け、市が設けた市職員不祥事調査・再発防止検討専門委員の3人は提



中村和洋弁護士（左から2人目）ら3人の専門委員から提言書を受け取る石見市長＝姫路市役所

言をまとめ、石見利勝市長に10日、手渡した。石見市長は「改めて市民の信頼回復に向けてきっちりとした」と述べた。

同市では当時の市建設局長(60)＝懲戒免職＝と市道路整備改善課長(56)＝同＝が、それぞれ別の贈収賄事件で加重収賄罪などで神戸地裁で有罪判決を受けた。事件を受け、市は3人の専門委員を設け、聞き取り調査などをしてきた。

専門委員の3人は西岡敏成・関西国際大教授、道谷卓・姫路独協大副学長、中村和洋弁護士で、提言はそれぞれがまとめた。主な内容は、利害関係者らからの要望・請求・苦情などの処

理過程が不透明にならないよう全件を記録する▽内部倫理を高めるため「監察室」の設置▽同一部署に長期在籍しないように人事異動する▽職員のコンプライアンス意識の徹底などを市に求めた。市は、この提言を踏まえた再発防止策を14日に開かれる市議会総務委員会で示す予定。

姫路市汚職事件再発防止へ提言

市長に外部有識者 姫路市発注の公共工事を巡る汚職事件で、元姫路署長で関西国際大人間科学部教授の西

岡敏成さんら外部有識者3人が10日、石見利勝市長に再発防止への提言書を出した。

不祥事の要因として組織の閉鎖性や職員の法令順守意識の低下、同一部署での長期間在任などを挙げ、防止策として監察室の復活などを提言した。また、職員を調査している中で、対応に苦慮する事案として「市議からの過度な要望」を挙げる声があったことも明らかにした。市は提言を基に、再発防止策を14日の市議会総務委員会で報告する。

【幸長由子】